

主体的に学び合おうとする児童の育成
～第1学年「じどう車ずかんをつくろう」の実践を通して～

曾於市立深川小学校 講師 清祐 香織

目 次

1 研究主題について	1
(1) 研究主題	
(2) 主題設定の理由	
2 研究の仮説	1
3 研究の実際	2
(1) 視点1 情報の再構築のためのスキルを高めるための取組	
(2) 視点2 協働的に学び合おうとするための取組	
4 研究の成果	9
5 今後の課題	9

〔引用・参考文献〕

・『小学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	平成 29 年
・『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省	平成 29 年
・『指導資料「国語科 第 137 号」』	鹿児島県総合教育センター	平成 28 年
・『学習集団づくりが描く「学びの地図」』 深澤広明・吉田成章	溪水社	平成 30 年

1 研究主題について

(1) 研究主題

主体的に学び合おうとする児童の育成 ～第1学年「じどう車ずかんをつくろう」の実践を通して～

(2) 主題設定の理由

ア 今日の課題から

AIなどの技術の進化や価値観の多様化など、現在の学校教育を取り巻く社会環境は著しく変化している。小学校学習指導要領解説総則編において、「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」、「様々な情報を見極め知識の概念的な理解を實現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと」、「複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が、学校教育に求められていると述べられている。このことから、国語科においては、「他者と協働的に学び合うこと」、「情報の再構築のためのスキルを高めていくこと」、「目的を再構築すること」が、児童にとって重要になると考える。

イ 学校教育目標から

本校の教育目標は、「自分も、みんなも大切に～さあ！どうする。考えよう 話し合おう 動こう～」である。友と共に「学び合う」ことで自分の考えを広げたり、深めたりすることが、学校教育目標の具現化につながるものであると考える。

ウ 児童の実態から

本学級は第1学年5人の少人数学級である。曾於市では「学び合い」を取り入れた指導法改善を図っているため、4月当初から児童どうして話し合ったり、見せ合ったりする活動に取り組ませている。しかし、「友達の話は聞きたくない」、「人に見せたくない」という声も聞こえていた。その根底には、「間違えたくない」、「間違いを認めたくない」、「人より遅くなるのが嫌だ」などの思いがあるようだった。10月に質問法によるアンケートをとった結果、本学級児童は、「自分の考えを他者へ伝えること」は好き・得意であると自認している一方、「友達の話を聞くこと」や「友達と話し合うこと」は、好きではない・苦手であると考えている児童が多いことが分かった。

そこで、国語科において、新たな発見ができたり、友達と協働的に学ぶことが楽しいと感じたりする学習経験を積み重ねることが、児童の意識の変容につながるのではないかと思い、本主題を設定した。

2 研究の仮説

【仮説】

国語科において、情報の再構築のためのスキルを高めたり、協働的に学び合ったりすれば、児童の主体的に学び合おうとする姿が見られるのではないか。

以下のような視点で研究を進めていくことで、研究主題に迫っていきたいと考える。

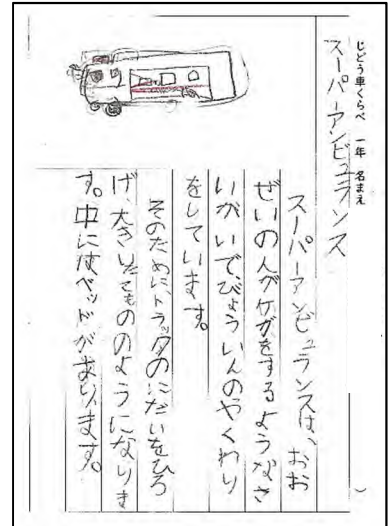
- (1) 視点1 情報の再構築のためのスキルを高めるための取組
- (2) 視点2 協働的に学び合おうとするための取組

また、検証内容は、以下のとおりとする。

〈対象〉1年生 5人

〈内容〉

視点1	ア 教材の音読と並行読書 イ 情報を読み取るための手立て ウ 情報整理の工夫 エ 学びを生かした言語活動
視点2	ア ペア・グループ活動の充実 イ 教材教具や配置等、環境の工夫 ウ ジャンプ課題の設定



〔資料1〕児童が書いたカード

3 研究の実際 単元名「せつめいする文しょうをよもう」「せつめいする文しょうをかこう」
 教材名「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」 光村1年

単元の目標

《じどう車くらべ》

- ◎ 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思C(1)ア】
- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。【知(2)ア】
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【思C(1)ウ】

《じどう車ずかんをつくろう》

- ◎ 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。【思B(1)イ】
- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。【知(2)ア】

(1) 視点1 情報の再構築のためのスキルを高めるための取組

ア 教材の音読と並行読書

書かれている文章から内容を正しく捉えるために、音読の重要性が高くなっていく。家庭学習の音読はもとより、指で文字をたどらせながら、はっきり音読する時間を取った。自動車に関する本の並行読書を行い、自動車への興味を高めて学習意欲の継続を図った。なお、入学時の「読む力」は一人一人の差が非常に大きかったため、授業中ではもとより、補充指導も必要に応じて継続して行った。1学期末には5人全てが、平仮名の読み・書きを習得することができた。

イ 情報を読み取るための手立て

図鑑等の資料から情報を得るには、「①絵や図・写真などから分かる情報」と「②解説文など文字から分かる情報」の二つから情報を読み取る必要がある。本単元は、教材「じどう車くらべ」

に書かれている情報と情報の関係について整理し、実際に自分が調べたい自動車を調べて文章に表す学習である。自動車図鑑をつくるために、「しごと」と「つくり」に着目して資料を読み取ることが重要であることをより実感できるようにするため、次の実践を行った。

「どうやって仲間分けをしたらいいのだろう」(7 / 13 時)



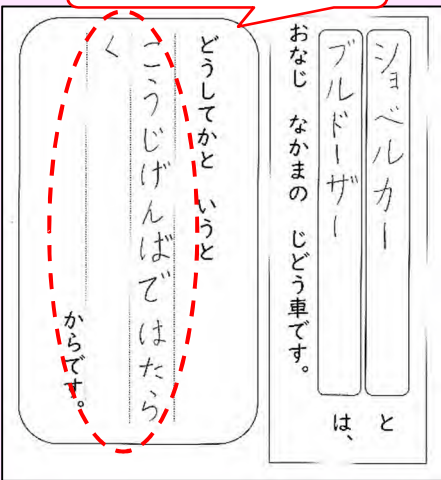

教科書では「じどう車くらべ」と「じどう車ずかんをつくろう」のつなぎとして、絵を見てはしご車の「しごと」と「つくり」を簡単な文章に表す時間が設定されている。しかし、「じどう車くらべ」と「じどう車ずかんをつくろう」のつなぎとして、十分ではないと感じたため、1単位時間を設けることにした。いくつかの自動車の「なにかまわけ」をすることによって、「しごと」と「つくり」に注目して見る練習の時間として、本時を設定した。



じどう車くらべ 学しゅうけいかく									
「しごと」と「つくり」をまとめて、じどう車ずかんをつくろう。									
じどう車ずかんをつくろう					じどう車くらべ				
日づけ	学しゅうすること								
／	●どんな学しゅうをするのだろう。								
／	●バスやじようよう車は、								
／	どんな「しごと」と「つくり」だろう。								
／	●トラックは、								
／	どんな「しごと」と「つくり」だろう。								
／	●クレーン車は、								
／	どんな「しごと」と「つくり」だろう。								
／	●じようしてこのじゆんばなのだろう。								
／	●どうすれば「しごと」を								
／	カードにまとめられるのだろう。								
／	●どうやってなにかまわけしたらいいのだろう。								
／	●好きなじどう車の「しごと」をしよう。								
／	①かきたい「じどう車」をめる。								
／	●「しごと」にあつた「つくり」を見よう。								
／	③「つくり」をしる。								
／	●「じどう車しよかいカード」の下がきを								
／	かこう。								
／	④下がき								
／	●「じどう車しよかいカード」をかんせいせよう。								
／	⑤せいしよ								
／	●「じどう車ずかん」のはつびようかいをしよう。								
／	⑥学しゅうのまとめ								
／	まとめ(たいせつキーワード)								

〔資料2〕学習計画表

〈本時の指導に当たって〉

- 「つかむ・見通す」段階では、学習計画を基に、前時までの学習を想起させ、本時のめあてを確認するようにした。また、児童が主体的に自力解決できるように、1単位時間の学習の進め方を確認した。
- 「調べる・まとめる」段階では、児童が主体的に解決できるように、車の写真カードとワークシートを使って書き込めるようにした。作業が進まない児童には、「どうしてこれとこれが仲間なの」と問い、話させることで思考を明確にさせ、書かせることに留意した。また、写真カードだけでなく、文章からも探すことができるように関連図書をいつでも見られるように準備しておいた。ワークシートは、1枚ずつ分けることで達成感をもって取り組めるようにした。友達と関わるのが難しい児童には、児童どうしをつなげるように互いのワークシートを見合うように早めに声を掛けた。友達の話を書くときには、「話合いのキーワード」を提示し、参考にしながら聴き合う時間ももてるようにした。
- 「ジャンプ課題」の場面では、児童があまりなじみのない自動車から共通点がないか考えさせ、活発な意見の交流がもてることをねらいとした。

種	主 な 学 習 活 動	教 師 の は た ら き 掛 け ・ 児 童 の 様 子
つ か む ・ 見 通 す	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">じどう車をなかまわけしよう。</p> <p>2 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうやってなかまわけをしたらよいのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>① どれとどれが仲間かカードを選ぶ。</p> <p>② カードを見て、「しごと」と「つくり」を考えワークシートに書き出す。</p> <p>③ 書いたワークシートを読み合い、感想を伝え合う。</p> </div>	<p>・ 自動車の写真を提示し、活動への意欲を高めさせる。</p>  <p>〔写真1〕導入時の板書</p>
調 べ る	<p>3 自動車を仲間分けする。個・ペア</p> <p>① 仲間のカードを見付ける。 ・ 同じ仲間のカードを見付ける。</p> <p>② なぜ、仲間なのか「つくり」や「仕事」に着目して、ワークシートに書き出す。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>これとこれがなかまだよね。</p> </div>  <p>〔写真2〕カードを見せながら話し合う様子</p> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「しごと」に着目</p> </div>  <p>〔資料3〕児童のワークシート</p>	<p>・ 児童どうしの情報交換も行いながら、活動を進めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>個別の支援・指導</p> <p>□ ワークシートに書けない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉が分からない場合は、本を見るように促す。 ・ 「どうして」と問うことで、話をさせ、<u>自分の考えを明確にさせる。</u> <p>□ 自力解決ができる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに書いたら、間違いがないか読み返し、友達と内容を確認したり、アドバイスしたりするように促す。 </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どうしてそう思ったの？</p> </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>だってこれは…</p> </div>  <p>〔写真3〕考えを明確にさせるための問い</p>

ま と め る	<p>4 どうやって仲間分けしたかたしかめ、まとめる。全体</p> <p>① 全体で意見を交流する。</p> <p>② 「しごと」や「つくり」で仲間分けできることを確かめる。</p> <p>しごとやつくりでなかまわけできる。</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> 児童の学び合う時間の確保 </div> <p>全体共有の時間を短縮するため、机間指導しながら短冊黒板に書いておいた。</p>  <p>【写真4】なかま分け後の板書</p>
	<p>5 トラクターとタグカーは、同じ仲間かどうか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ「つくり」があるかどうか写真を見て考える。 ・ 「しごと」についても考える。 <p>「タイヤの大きさがにているね。」 「後ろの方で何かひっばっているところが同じだよ。」 「乗っている人の様子が違うね。」 「働く場所が違うよ。」 「仲間かな。違うのかな。」 「タイヤの溝が違うよ。」 など、児童が活発に意見の交流を行い、しごとやつくりを確かめることが重要であることを共有していた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい写真を準備し、写真に書き込みができるようにすることで、話し合いやすくする。  <p>【写真5】ジャンプ課題に取り組む様子</p>
つ な げ る	<p>6 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>7 次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返りをノートに記入させる。 ・ 次は、自動車カードを作り始める学習であることを伝え、次時への意欲を促す。

この後、第3次の図鑑づくりの活動を展開した。

ウ 情報整理の工夫

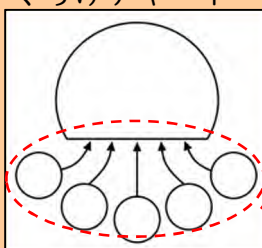
書きたい自動車を決め、図鑑を読んで「しごと」と「つくり」に着目して情報を探した。その際、「しごと」と「つくり」を明確にさせるために、「いかチャート」を使って情報を整理させた。「いかチャート」は、ロイロノート（株式会社 LoiLo）の「くらげチャート」を参考にして、児童が縦

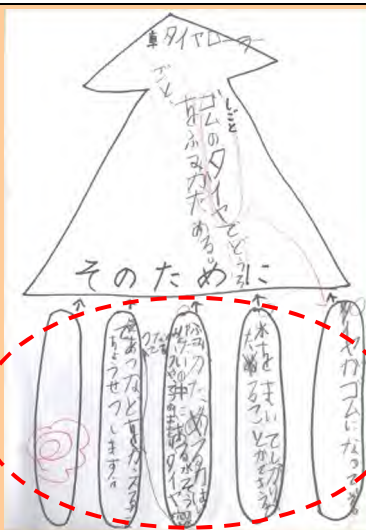
書きで書けるように考案した。また、児童の発達の段階を考え、ロイロノートではなく、大きめの紙（B4サイズ）に鉛筆で書くようにした。

児童の実態

縦書き？横書き？
小さくて
書きづらいよ

くらげチャート





[資料4] いかチャート児童記入例

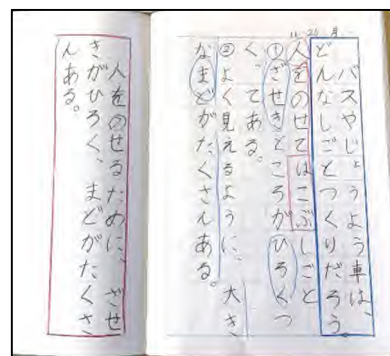
本を丸写しするのではなく、調べて分かったことを整理して書く経験を積ませたい。

↓

チャート図を使って情報を整理し、調べた「つくり」（あしの部分）から、二つ程度選んで原稿に書くようにした。


エ 学びを生かした言語活動

書くことに慣れ親しむことができるように、継続した指導を行った。1年生の1学期に平仮名の書き方を学習し終えるため、2学期からノートにめあてとまとめを書くように指導した。このことで、書くスピードと正確さが備わってきた。11月からは、1単位時間の振り返りをノートに書くようにした。書きたいことがたくさん出てきて、どの児童も楽しんで書いている。10月の実態調査では、全ての児童が「書くことが好きである」と答えている。




[資料5] 児童のノート

「じどう車ずかんをつくろう」では、「図鑑として仕上げること」＝「誰かが読むためのもの」であることを意識させて書かせることで、丁寧に書こうとする姿が見られた。書いた文は必ず自分で読み返させ、友達とも交換して読み合わせることで、誤字脱字がないか確かめる児童の姿も見られた。それまでの学習で指導してきたことを自然と自分たちで考えてできるようになってきていると感じた。一人につき2枚程度書けるように時間設定したが、児童の意欲が高く、一人3～4枚ずつ書かせることができた。書いたものは、まとめて「深川小の図鑑 自動車」として1冊の本にして、全校児童が見られるように玄関横スペースに掲示した。また、原稿を画像に取り込み、学級全員の原稿を1冊にまとめたミニ図鑑を一人1冊ずつ作って渡した。ミニ図鑑になったものを繰り返し読んでいる児童の姿が見られた。



[写真6] 図鑑（中身）



[写真7] 図鑑（表紙）
(横のボールペンは大きさの比較)

児童の思い

本になった！
嬉しいな。読みたいな。

(2) 視点2 協働的に学び合おうとするための取組

ア ペア・グループ活動の充実

入学当初は、友達に教えてあげるのは好きだけど、教えてもらうのは嫌だという実態があった。「教える」、「教わる」ではなく、「伝え合う」、「共に考える」ことができるように活動を工夫してきた。本校研修で作成した話し合い・聞き合いのキーワードを活用して、「あたたかい気持ちで聞く」ことに気を付けるよう指導した。全ての教科で取り入れることができ、1か月程度でキーワードの提示なしでも次第に児童が、友達の発言を生かして発言できるようになっていった。

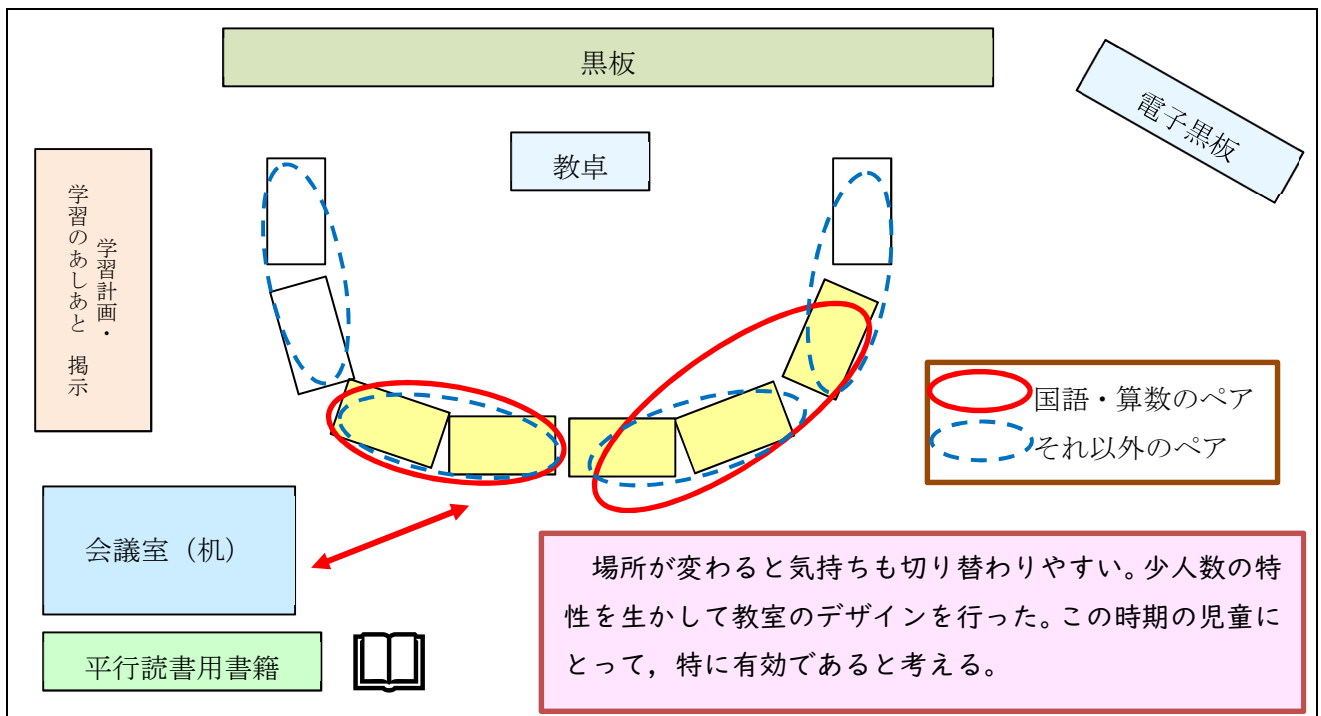


〔資料6〕話し合い・聞き合いのキーワード

イ 教材教具や配置等、環境の工夫

(ア) 配置の工夫

協働的に学び合うために、机の向きを工夫した。8人中3人が特別支援学級在籍児童で、国語・算数以外の時間は交流学級での学習となる。国語・算数の度に班の形に変えて……というのは、1年生には難しかった。活発な学び合いをするために座席の工夫をしたかったので、コの字型の座席にして両端を特別支援級児童の座席にした。国語・算数以外の時間にもペアで学び合えるように「話し合い・聞き合いのキーワード」を提示して児童どうしの交流を図るようにした。コの字型の机配置にすることで、自然と児童どうしがつながっていくようになっていった。また、給食の配膳台程度の大きさの机を教室後方に設置し、「会議室」として5人全員で話し合う場を作った。場所を設定することで、児童の意識が切り替わり個人ではなく、5人で話し合おうとする気持ちを高めることができた。



〔資料7〕教室配置図

(1) 教具の工夫

話し合いや聞き合いを活性化させるために、自動車の写真と自動車名が書かれた名刺大のカードを準備した。カードを動かしながら児童どうしが話し合う姿がよく見られ、カードの並び替えや、拡大したカードに書き込みをしながら話し合っていた。児童どうしをつなぐために、視覚的にとらえることができるカードの準備が大変有効であった。



ウ ジャンプ課題の設定

より深く考えさせ、児童どうしをつなぐために、ジャンプ課題を設定した。一人ではできないことこそ、児童どうしがつながり、協働的に学び合おうとすることになるであろうことから、児童があまりなじみのない自動車から共通点がないか考えさせ、活発な意見の交流がもてることをねらいとした。自動車の選定をするに当たって、「つくり」が似ている自動車を探した。農業用の「トラクター」と空港で働く「タグカー」のタイヤの大きさが、前輪が小さく後輪が大きいという共通点があった。また、「フォークリフト」では、逆に前輪が大きく、後輪が小さなものもある。この三つをジャンプ課題の候補にしたが、今回は「トラクター」と「タグカー」の二つを取り扱うことにした。カードの準備に当たっては、車体の大きさや写真の角度が同じようになるように意識して画像を選んだ。また、なじみのないタグカーに関しては、飛行機と一緒に写っている画像を用意して、空港で働く車であることを確認してから話し合わせた。

ジャンプ課題については、一人一人にカードは準備せずに、A3サイズのカードを準備して、会議室(机)の場で5人全員で考えさせた。ワークシートは使わずに、カードに書き込めるようにホワイトボードマーカーを用意して、話し合わせた。



意図したとおり、つくりが同じである／異なるという視点や、自動車の運転手の様子や働く場所から仕事内容を推察し、自分なりの意見を話そうとする姿が見られた。また、友達の気づきを聞いて、考えを深めたり、新しいものの見方に気付いたりして発言する様子が見られた。

4 研究の成果

- 音読を大切にすることで、書いてあることを読み取る力が少しずつ付いてきている。初見の文章は、すらすら読めずに内容理解も難しいようだったが、積み重ねていくことで、すらすら読めるようになってきた。2学期末には図書の本を進んで読み、世界の昔話など今までより長い文章の絵本も楽しんで読めるようになってきた。
- 「情報を見付け出す」ために、児童に「しごと」と「つくり」という視点をもたせることで、一人一人が自分の力で情報を見付け出すことができた。また、「くちばし」や「うみのかくれんぼ」など既習の内容についても、「問い」と「答え」を確かめることで、理解が深まっていった。
- 見付けた情報の整理をすることについては、「ともだちのこと、しらせよう」や「しらせたいな、見せたいな」など書く学習で、短文カードの入れ替えを行いながら、文章の順序について考えて文章構成を行う活動を行ってきた。今回は、調べたことからどの情報を扱うのか、自分なりの視点をもって情報の取捨選択を行うために「いかチャート」を使って考えさせた。「いかチャート」から、どの児童もスムーズに原稿に取りかかることができていた。今回の実践により、情報の再構築をするスキルを高めることにつながったと考える。
- 書いたものを読み合う時間や発表の時間には、友達のよかったところを探しながら聞いたり読んだりするように継続して指導してきた。また、学級全員分を掲載したミニ図鑑にすることで、作って発表して終わりではなく、ミニ図鑑を何度も読み返し、自分が書いた文章や友達が書いた文章をじっくりと味わう様子も見られた。これらのことが、児童の自己肯定感や友達どうしのつながりなどを高めていくことになったと考える。児童の「できた」が増えると、友達相互の関係も改善していき、落ち着いて学習に取り組めるようになってきていると感じる。
- ペア・グループ活動の充実のために、「話し合い・聞き合いのキーワード」が非常に効果的であった。文字だけではなく、絵があることが大きかった。
- 1年生でどこまで「学び合い」ができるようになるのか、不安な面もあったが、お互いに確かめながら学習に取り組むことで、児童は安心して学習に取り組めるようになってきた。「教え合い」ではなく、「学び合い」になるようにするためには、1年生の今が重要になってくると感じた。友達の意見を聴いて、素直に「いいね」「もっとこうしたい」と言える仲間づくりができた今、児童がどの学習にも意欲的で明るく楽しそうに取り組む姿に表れている。

5 今後の課題

- 児童が2年生に進級することを考えると、更にスピード感をもって、読むことができるようにしていきたい。今後は、より豊かな言語能力を高めるために「視写」「聴写」などにも取り組んでいきたい。
- 国語科以外でも、いろいろな型のシンキングツールの活用を積極的に行いたい。低学年から扱うことによって、自分で選択して自由に扱えるようにしていくことが重要であると考えます。
- 単元と単元をつなぐ、教科と教科をつなぐ、児童と児童をつなぐなど、コーディネーターとしての役割を果たせるよう、学習や学級全体を見通すことを意識して教育活動に当たりたい。
- 児童自身が自分たちの力で学ぶことができた実感することができる授業づくり・学級経営をしていきたい。そのためにも、全ての教科での振り返りを継続してだけでなく、振り返りの視点の持たせ方を工夫・改善していくことが求められる。